

# 成功へのキセキ

# 南の国の「ナデシコ」税理士

## 第26回 人はなぜ生きるのか～子供たちに伝えたいこと

「キミたちは生きていて、価値のある大切な存在なんだよ。」

これは、私が、児童養護施設の子供たちと関わる時、いつも伝えたいと思っているメッセージです。

子供たちが、施設にやってくる理由は、様々です。病気や事故で親を亡くした子供だけでなく、育児放棄や暴力などが原因で、親と一緒に暮らせない子供の割合が増えているそうです。

児童養護施設で働くスタッフは、献身的に子供たちの世話をする人たちばかりです。子供たちと一緒に暮らすわけなので、勤務時間も、会計事務所のように9時～6時というわけにはいきません。泊りもあれば、翌朝、子供たちを学校に送り出したあと、たまった作業を片付けていると、あっという間に幼稚園のチビちゃんたちが帰ってきてしまい、結局、夕ご飯と一緒に食べる羽目に…、なんということも普通にあるそうです。

なんとというブラック企業(笑)。

誤解を恐れずにいうなら、彼らは子供たちのために、ある意味、自分の生活を犠牲にして、子供たちと寝食をともにしているのです。本当に、頭が下がります。

それでも…

「キミがいてくれて、ありがとう」

小さいとき親と別れたり、生きるために必要な最低限の安心を与えられなかった子供は、記憶にも残らない、幼いころ、無意識のレベルで受け取るはずの、このメッセージを知らないまま、大きくなっていくのではないかと、そんな気がしてならないからです。

なぜなら、私自身、親から普通以上に厳しく育てられ、「自分は、存在価値のない人間だ」と子供のころ思っていたからです。親が期待する通りに、ピアニストになれなかった。

「私は他人より劣っていて、ダメな人間だ」

どんなに学校の成績が良くても、心の中では、いつも強烈な劣等感を感じていました。私は、他人に愛される資格のない人間だと。

けれど、大人になって税理士になってから、私の人生は劇的に変わりました。30歳前後のペーパー税理士の言葉に、従業員を何百人もかかえる会社の社長が熱心に耳を傾けてくれる。税金の相談だけでなく、経営の悩み、恋愛の悩み、人生の悩みを打ち明けてくれるクライアントたち。

あー、私を必要としてくれる人が、こんなにたくさんいるんだ…。

私は自分の言葉に自信をもち、生きる価値を見出すことができました。クライアントに頼られるのは、私にとって、無上の喜びとなりました。

余談ですが、私はクライアントから怒られれば、怒られるほど、嬉しくなります。クライアントのクレームを聞きながら、「そんなに怒るほど、期待してくれていたのね。ありがとう」と、思えるからです。スタッフからは、ドMだと、からかわれますが(笑)。

税金だけではなく、分野にとらわれない、何でも相談できるワンストップのサービスを目指そう。そう思って、税理士の仕事をしてきました。そして、戸沢暢美さんというクライアントに出会い、彼女の遺産を託され、今の戸沢財団があるのです。

いまはまだ、孤独で不安かもしれない。でも必ず、あなたを必要としてくれる人が現れるから。必ず生きるミッションが見つかるから。

児童養護施設の子供たちに、このメッセージを伝えたい。けれど、単に言葉だけを言っても、伝わるはずもありません…。子供たちからしたら、時々、施設にやってきて、おしゃべりしたり、たまにキャンプに行ったりするだけの「よその」大人に、なかなか心は開く気にはなれなくて、当然でしょう。

なんとか、方法はないかしらんと思案し、そうだ！戸沢財団が支援している心魂プロジェクトさんに、施設にミュージカルをデリバリーしてもらおう、と思いつきました。

「心魂プロジェクト」さんは、普段は難病で病院から出られない、劇場に来られない子供向けに、ミュージカルを病院に届ける活動をしているのですが、児童養護施設の子供向けに、新作ミュージカルを作ってくれることになったのです。

そして同じように、病院で暮らす子供たちのために、移動式のプラネタリウムを持って、全国の病院を回っている「星つむぎの



プラネタリウム・ミュージカルの一場面

### ◆筆者 原 尚美 (はら なおみ) プロフィール

税理士。東京外国語大学卒業。TACの全日本答練(現:全国公開模試)「財務諸表論」「法人税法」を全国1位の成績で、税理士試験に合格。直後に出産。育児と両立させるため、1日3時間だけの会計事務所からスタートし、現在は全員女性だけのスタッフ30名、一部上場企業の子会社やグローバル企業の日本子会社などをクライアントにもつ。ミャンマーに会計サービスの会社を設立し、海外進出支援にも力を入れている。著書に「小さな会社のための総務・経理の仕事がわかる本」「小さな起業のファイナンス」(いずれもソーテック社)、『51の質問に答えるだけですぐできる「事業計画書」のつくり方(日本実業出版社)』『トコトわかる株式会社のつくり方(新星出版社)』『世界一ラクにできる確定申告(技術評論社)』『一生食っていくための土業の営業術(中経出版)』など。その他、「経理ウーマン」「デイの経営と運営」など雑誌への寄稿や、商工会議所、中小企業投資育成株式会社、日本政策金融公庫などでの、セミナー実績も多数。

村]さんに、映像を担当していただきました。

子供たちにも、できるだけ参加してもらいたいと、手描きのチラシづくりにも協力してもらいました。いや、それだけではなく、私の想いに共感してくださった心魂プロジェクトさんの発案で、子供たち自身にも、ミュージカルに参加してもらおうということになったのです。

小学生が、プロのミュージカル俳優と、同じステージに立って、観客に自分の踊りを観てもらおう！

なんとという素晴らしい体験でしょう。これから先、落ち込んだとき、自信をなくしたとき、何度でも引っ張りだして思い出せる宝物になるに違いありません。心魂プロジェクトさんは、希望する子供たちに、踊りの振り付けを指導しに、前もってわざわざ、施設を訪問してくださったのです。感謝！

こうして、児童養護施設での、プラネタリウム・ミュージカルは、無事に開催されました。俳優たちを食い入るように見つめる子供たち。

キミたちは、孤独じゃないよ。キミを大切に思ってくれる人が、必ずいるから。生きているだけで、価値のある大切な存在なんだよ。

ミュージカルのメッセージは、子供たちに、届いたから？

物語のクライマックス、「you raise me up」の曲がかかると、4人の子供たちがステージに駆け上がります。そして、心魂プロジェクトのメンバーと一緒に、練習してきた振り付けで、見事な踊りを披露してくれました。

観ていた大人はみな、涙、涙、涙…。

踊ってくれた子供たちも、泣いていました。

当日は、山梨日日新聞の記者が取材に来ていて、翌日、ステージで踊った子供のコメントが載っていたのです。「私は生きていてもいいんだ、と思えました」

あー、想いは、伝わった！

まずい…。この原稿を書いているだけで、また涙が出てきてしまいます…(笑)。

それにしても、音楽の力は偉大です。すっかり気をよくして、という訳ではないのですが、児童養護施設でのプラネタリウム・ミュージカルは、今年11月にもう1回、開催します。じつは来年の予定もすでに1回、決まっています。

そしてなんと、かのミナミの国、ミャンマーにも、デリバリーすることが決まりました！

想いはつながる。戸沢暢美さんの生命を引継ぎ、私は、私にしかできないことを、今やらせていただいているんだなと、しみじみ感じます。これが、私に与えられた使命なんだと。



好評  
発売中

**7人家族の主婦で1日3時間しか使えなかった私が  
知識ゼロから難関資格に合格した方法**

原 尚美 著 (中経出版)      1,300円+税

7人家族の主婦で  
1日3時間しか  
使えなかった私が  
知識ゼロから  
難関資格に  
合格した方法

アタマのいい人と勉強のできる人は違います。勉強のできる人は、点をとるコツを知っているだけなのです。どうすれば本番で実力以上の力を発揮して、難関試験に合格するための、超合理的な、大人の勉強法について書いたものです。がんばっているのだけれど、なぜか結果のでない方、勉強したいのに、仕事が忙しくて時間がとれないビジネスパーソン、今よりひとつ上の人生を目指たくて、悩んでいる方、このまま家庭の中だけに埋もれてしまいたくない子育て中のママ、そんな皆さんへの応援の気持ちを込めた一冊です。

合格率10%以下の難関資格にストレートで合格した驚異的なメソッド公開!